

## 建設候補地周辺自治会説明会要旨

- 1 説明会 新しい一般廃棄物処理施設整備に関する  
建設候補地周辺自治会説明会（第8回）
- 2 開催日時 令和5年12月17日（日）午前10時から午前11時15分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター平沢分館
- 4 参加者 10人（傍聴者は、一関市議会議員4人）
- 5 事務局  
石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、菅原彰一関清掃センター所長、  
蜂谷敏志大東清掃センター所長、吉田健総務管理課長、  
菊池弘総務管理課施設整備係長、石川勝志主査、日下尚也主事  
一般財団法人日本環境衛生センター3名（以下、日環センター）  
国際航業株式会社4名（以下、国際航業）

## 6 説明

- (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について
- (2) 環境影響評価準備書について

## 7 あいさつ

本日はご多用の中、説明会へ参加いただいたことに対し感謝を申し上げます。  
施設整備に関しては、これまでも各段階で説明会を開催し、ご意見をいただきながら  
検討を進めてきた。

環境影響評価については、どのような方法で実施するかといった内容の説明会を2年  
前に開催し、ご意見を頂戴していたところである。

本日は環境影響について、調査を行い、その影響を予測し、それについてどのような  
対策が考えられるのかについて、組合として検討した結果を説明させていただく。

限られた時間ではあるが有意義な会にしたいと思っているので、これまでと同様に忌  
憚のないご意見、ご質問をお願いしたい。

## 8 説明内容

- (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について  
配付資料に沿って事務局が説明を行った。
- (2) 環境影響評価準備書について  
配付資料に沿って国際航業が説明を行った。

## 9 質疑応答

参加者 平常時ではなく例えば大雨のときに災害廃棄物ストックヤードなど屋根のない

ところに置かれたもの、そこから流れ出る水などが心配である。災害時の調査と  
いったものはどのように考えているのか。

国際航業 お話のあった内容については、環境影響評価上では対象外である。いただいた  
意見については、今後、事業者において対策等を検討することになる。

事務局 災害時の想定も災害の種類や程度によって様々なケースがあり、すべてを予測  
するのは難しいので、この環境影響評価は平常時をベースに行っている。災害へ  
の対応についてはこの評価とは別に、施設を整備する際に設計の中で検討してい  
くものと考えている。

参加者 環境影響評価の内容について先ほど説明を受けたが、資料を見ながらすぐには  
理解が難しい。これで説明会をしたからといって地元の理解を得たということでは  
ないと思う。形の上では説明をした、というものだと思う。副管理者は今の説明  
を聞いて十分に理解して、誰かに説明できるような説明会であったと思うか。

副管理者 まずは現況を調査し、影響を予測して、環境配慮事項などをまとめたところ  
である。内容すべてを理解するのは難しいとは思いますが、まずご理解いただきたい  
ことは、全体的な結果としては、この施設整備で想定される生活環境への影響は  
極力少ないということである。ひとつひとつの具体的な内容、心配な部分につい  
ては、ご質問、ご意見をいただき、工事や施設の稼働の仕方の中で対応していく  
ことになると思う。

事務局 本日は大きな括りでの説明をさせていただいた。この部分をもう少し詳しく説  
明してほしいといったことがあれば、ポイントを絞って説明をさせていただきた  
い。

参加者 工事車両に関して、粉じん、騒音、振動については大きく影響しないとのこと  
であった。1日100台が通過するという想定であるということだが、100台とい  
うのは片道と往復のどちらか。片道だと4分に1台、往復だと2分に1台が通る  
計算になる。環境影響上の問題はないのかもしれないが、安全上の懸念がある。

国際航業 発生量として100台ということであり、往復で200台が予測地点を通過する  
という想定である。台数については、国土交通省の資料をもとに1日当たりの標  
準作業量から算出すると、1日当たり最大で100台くらいとなり、それ以上多  
くなることはないと思う。運行台数は1時間当たり22台から23台くらい予測地  
点を通過するということであり、3分に1台くらいの台数となる。

参加者 猛禽類のところで、専門家の助言を得ながら適切な対策を講じる場合がある  
という記載があるが、適切な対策として考えられるのはどういった方法があるか。

国際航業 調査結果によるが、場合によって工事を一時的に中止するなどが想定される。

参加者 もし工事が中止される場合は、工期が延長されることになるのか。

国際航業 万が一工事を中止するとすれば、猛禽類の営巣期間の3か月から4か月程度の間である。それによって工事工程にどのような影響が及ぶかは今後の検討になるかと思うが、若干工期が延長されることは可能性としてはあると思う。

参加者 サシバ、ノスリは生息が確認されているのか。

国際航業 それ以外の猛禽類も飛翔などは確認しているが、その2種については途中失敗も含め繁殖の兆候を確認している。

参加者 生態系の頂点にいる鳥であるため、影響があると生態系全体に影響があると考えられる。調査にあたっては慎重に考えて行動してほしい。

国際航業 サシバとノスリの繁殖場所は、事業実施区域から200メートルの範囲を点線で囲っている調査範囲内ではなく、事業実施区域から数100メートル離れた場所である。ただし、工事中に建設機械等の稼働により音が出ることなどが考えられるため、引き続きモニタリングを行いながら対応してまいりたいと考えている。

また、大気質についてどのような地点で調査を行い、どのように予測を行ったか、補足の説明をさせていただきたい。スライドの8頁に調査地点の位置図を掲載している。大気質については煙突排ガスの影響が考えられるため、場所としては平沢分館や弥栄市民センターなどで現状の濃度を調査し、調査結果としてとりまとめている。次に、調査地点に煙突排ガスがどのくらいの濃度で到達するのかを予測している。予測結果は煙突排ガスにより新たに加わることになる濃度と現状の濃度を足し合わせて、環境基準と比べている。工事用車両や廃棄物運搬車両が通る道路沿いについても、同様にその場所で調査を行い、車両からの排ガスの濃度がどのくらいになるのかを別途計算し、現状の数値と足し合わせて、将来的にどのくらいの濃度になるのかを計算している。騒音や振動についても、同様に現状がどのようになっているのか、工事中若しくは施設稼働後にどのくらいの音や振動が出るのかを別途計算し、現状と足し合わせている。スライドに示している結果は、一番数値が大きい場所や実際の予測地点で、予測結果と基準値がどのようになっているかをグラフで示している。

参加者 処理能力について、1時間当たり4.5トンが2炉あり、24時間稼働すると説明があった。今までの清掃センターがどのくらいの能力のもので、それが統合されることによってどのくらいの規模により、炉の性能がどうなるのか。

事務局 現在の清掃センターの処理能力は、一関清掃センターが1日当たり150トン、大東センターが1日当たり80トン、単純合計では1日当たり230トンとなるが、計画している新処理施設の処理能力は1日当たり106トンである。これは、ひと

つは将来に必要となるごみ処理量を算出すると人口減少などの影響もあり、現在の規模より小さくなっている。処理能力としても、現在の一関清掃センターは昭和の時代に建設した建物であるが、今の基準はかなり厳しくなっているので、排出基準はこれまでも説明してきたとおり、法令よりもさらに厳しい自主基準を設定した施設を計画している。

参加者 二酸化窒素等の最大着地点が示されているが、現状に対してどれくらい増えるか数値が示せるか。最大着地点は山林だと思うが、その下にため池があり、水田の用水として使用している。

国際航業 増加率は、およそ現況濃度の 10 分の 1 程度になる。例えば二酸化窒素については、最大地点が 0.00056 ppm であり、現況濃度は 0.0026ppm という数値である。

参加者 様々な測定値がある。測定は季節ごとに年間 4 回行ったと思うが、本日の資料は平均値であると思う。最大値、最小値や季節による変動の資料を見たいというときは見せていただけるか。

国際航業 準備書は縦覧場所で閲覧可能であるほか、組合ホームページにも掲載しており、そちらで確認いただけるようにしている。

事務局 本日も持参しているので、ご覧になりたい方は説明会終了後にお声がけいただきたい。

参加者 飛灰は施設の中で捕獲されるものであって、施設の外に出るものではないという理解でよいか。

国際航業 排ガス処理設備というものがあり、飛灰はそこで煙突から出ないように捕集したものである。

参加者 現在の各清掃センターでは 1 日当たりどのくらいの量を処理しているのか。

事務局 一関清掃センターは当初設計では 1 日当たり 150 トンの処理能力であるが、現状としては当初想定したごみ質とも変わってきており、今の処理量としては 1 日当たり 80 トン程度である。大東清掃センターも 1 日当たり 80 トンの処理能力に対し、1 日当たり 40 トン程度である。

参加者 今回整備を計画している施設は 1 日当たり 106 トンであり、現状の処理量は合計で 120 トンとなっているが、そのあたりは足りなくてパンクしないようになっているのか。

事務局 施設規模については、これからの人口推計や排出量の削減を見込んだ数値であり、処理能力が不足するといったことにはならない規模であると考えている。

参加者 施設の稼働までにはこの規模に収まるということだと思うが、ごみの処理量が

減少傾向にあるということはデータで把握しているのか。

事務局 総量については現在も減少傾向である。大きな要因は人口減少であるが、そういった推計を基に施設規模を計画している。

参加者 ごみの量は人口減少により減っていくのはその通りだと思うが、我々ごみを排出する市民の責任としてもごみの量を減らしていくという個人の努力も必要であり、社会のシステムとしても減らしていくという方向に、これは今回の焼却施設をつくるということとは別に、行政でもそのような活動というか取組をしていてもらいたい。

事務局 お話しのとおりであり、一人当たりの排出量を削減するということが大きな課題と捉えている。今回の新処理施設については、どうやったら焼却量を減らせるかといったことも考え、先に開催したリサイクル施設の整備基本計画の説明会でもお話ししたところであるが、衣類は燃やさずリサイクルに回すなど、できるだけリサイクルに回るような仕組みを考えながら、リサイクル率を高める方策を考えている。そういったことも踏まえての処理量ということで考えている。

10 担当課 総務管理課